

環境保全への取り組みが、着実に実を結んでいます。



商品・サービスも含めて、総合的なCSR活動で地域に貢献

銀行としての本業である「金融」の役割を通じて、地球温暖化防止など、持続可能な社会づくりに貢献できる範囲はますます拡大しています。当行ではこのような使命をいち早く認識し、金融機関ならではのCSR（企業の社会的責任）の取り組みとして、さまざまな環境対応型金融商品・サービスを開発・提供し、地域や地元企業の皆さまの環境保全活動を支援しています。

全国の金融機関で初の「カーボンオフセット定期預金 未来の種」

お客さまからお預け入れいただいた定期預金の金額に応じ、当行が費用を負担して温室効果ガス排出権を購入する「カーボンオフセット定期預金 未来の種」を、平成20年4月1日、国内の金融機関で初めて発売しました。

※同定期預金は、約60億円を上限とした総預入枠限定の商品です。

商品の仕組み

「しがぎん」は、日本が「CO₂マイナス6%」に取り組む約束をしている5年間（2008年～2012年）、毎年1回、ご預金残高の1000分の1にあたる額の排出権を購入します。



「GHG（グリーンハウスガス）」とは「温室効果ガス」と呼ばれる、CO₂に代表される地球温暖化の原因物質。

「カーボンオフセット」とは、地球温暖化対策として、企業や消費者が排出したCO₂などの一部を温室効果ガスの排出権取得や自然保護活動への協力などで相殺すること。

エコプラス定期で「学校ピオトープ」づくりのお手伝い

エコプラス定期は、当行のダイレクトチャンネル（ATM、電話、インターネット）で定期預金をお預け入れいただいた際、1回のお預け入れごとに7円（ダイレクトチャンネルで不要となる定期預金申込用紙代相当額）を当行が負担し、積み立てた金額を滋賀県内の小学校の「学校ピオトープ」づくりの資金として拠出させていただくものです。平成18年度は2校、平成19年度は3校に、それぞれ50万円、合計250万円を寄贈しています。

なお、平成20年3月末までの預入累計は、104万2,057件、8,987億円となりました。



「学校ピオトープ」とは

「環境学習の場の提供」として、学校やその周辺に生き物の棲息する空間を保全・創造する取り組み。学校などの校庭とその周辺に「ピオトープ」をつくることにより、子供たちに、自然の仕組みを体験しながら命の大切さを学んでもらうものです。



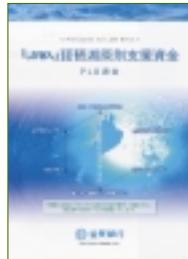
「琵琶湖原則支援資金 (PLB資金)」で 環境を主軸とするCSR活動をサポート

「琵琶湖原則支援資金 (PLB資金)」は、企業が展開される「環境を主軸とするCSR(企業の社会的責任)」促進事業に対し、優遇金利でご融資するものです。

当行が策定した「しがぎん琵琶湖原則 (PLB = Principles for Lake Biwa)」にご賛同いただいた企業・事業者の皆さまに対して「PLB格付」を実施。5段階の格付に応じて貸出金利を最大で0.5%優遇し、皆さまの「環境を主軸とするCSR経営」をサポートいたします。

平成20年3月末現在、融資累計は472件、67億8,200万円、PLBにご賛同いただいた企業・事業者は、2,184先にのぼっています。

また、「エコ・クリーン資金」もご好評をいただいております。「PLB資金」と合わせた融資累計は1,141件、150億7,100万円となりました。



エコクリーン資金・PLB資金実績累計



「カーボンニュートラルローン 未来よし」で 「ニゴロブナ」3万匹を放流

お客さまが当行の環境対応型金融商品である「琵琶湖原則支援資金 (PLB資金)」 「エコ・クリーン資金」 「エコ&耐震住宅ローン」 「セレクトリフォームローン (エコ&耐震)」を活用して「太陽光発電システム」などを導入された場合に、削減された二酸化炭素 (CO₂) の量に応じて当行が資金を積み立て、琵琶湖の固有種である「ニゴロブナ」の放流事業に拠出するものです。

また、放流事業による「ニゴロブナ」の増殖によって「フナズシ」など湖国の食文化を守り、振興しようとの願いも込めています。

平成20年1月に同ローンの拠出金による「ニゴロブナ放流式」を、草津市の烏丸半島で行い、役職員やその家族ら約340名が参加しました。

